

交換留学生



ジェニー・タック嬢(豪)

来日 1977年(S 52年) 1月
帰国 1978年(S 53年) 1月26日
わがクラブが最初にお世話した、オーストラリアからの留学生、原田金助、谷口勉両会員がよく面倒をみて下され、すっかり日本が好きになって帰国。



ポール・ブース君

来日 1982年(S 57年) 8月20日
離日 1983年(S 58年) 7月10日
アメリカ第739地区から来た少年で、爽やかな明るい子であった。うまく環境にとけこんで、目的意義がハッキリして1年を最も有意義に過ごされた。



西川朝子嬢

離日 1982年(S 57年) 8月18日
帰国 1983年(S 58年) 8月5日
アメリカ第787地区ベニントンR.C.へわがクラブより派遣した学生。活発で語学力もしっかりしていて1年間、現地より便りをくれました。帰国後も各地で報告会などに活躍されています。



大里パウロ君

来日 1984年(S 59年) 3月6日
離日 1985年(S 60年) 2月28日
ブラジル第459地区アチバイヤーR.C.より日系三世で、両親の故郷日本に来て、日本や日本人に強い意識をもっていた感じでした。お父さんがガバナーというロータリー家でもあり、必ず1年の体験を生かしてくれる人です。(村上)



井筒省吾君

離日 1986年(S 61年) 3月22日
帰国 1987年(S 62年) 3月予定
アメリカ・オレゴン州第510地区TIGARDロータリークラブ、TIGARD UNION高校。あこがれの米国留学が実現し、いろいろな事をどんどん吸収し、将来この経験を国際親善に役立たせたい。

米山奨学生



許淑珍嬢

1982年(S 57) 4月～1984年(S 59) 3月
(カウンセラー前田信夫君・羽根田豊君)大邱の高校教師、父君が阪大医学部卒、お母様が日本女子大出身の方で、キリスト教信者で誠に折目正しい方でした。(前田)



尹貞淑さん

1983年(S 58) 4月～1986年(S 61) 3月
(カウンセラー久保忠義君・小林幹弘君)市大博士過程で、専攻 住宅暖房でした。3年間カウンセラーをさせてもらいました。今は韓南大学講師、将来の国家を代表するエリートでしょう。男の子が1人居られる筈、頑張ってください。(久保)



呉元根君

1985年(S 60) 4月～1988年(S 63) 3月
(カウンセラー島津 陟君・岡本親男君)阪大のドクターコースの2年生、非常に優秀な学生で、制御工学専攻、奥様も修士過程を終了した方で、まさに明日の韓国をみる感じ、頼母しい方です。(島津)

奉仕こそ喜び——慶州ナザレ園を訪問して 1984年(S 59年) 10月27日 国際奉仕委員長 小林幹弘

日本の血をひく女性が、いま韓国の人々によって手厚く保護されている所である。彼女らの中には、内地に留学していた朝鮮の青年と結ばれてきた者もあれば幼い頃両親に手をひかれ渡ってきた者もある。大半が今だに日本国籍なのは、両親から「朝鮮人と結婚するなら籍はやらぬ」と云われて、勘当同様のかたちで家を出てきた者が少なくないからである。つまり、大日本帝国の時代に植民地の男と結ばれ敗戦を機に本人の全く意識せぬ間に大韓民国の男性と国際結婚した結果となった上、やがて韓国内に吹き荒れた反日思想におびえ、つづいて朝鮮動乱の戦火で夫や子供を亡くしたという孤老の日本人妻がいま新羅千年の歴史の眠る古都でひっそりと一団になって生きているのである。

私達一行は当クラブ10名に大阪なにわ2名と地元釜山西北クラブ7名の合計19名で10月27日午後3時「慶州ナザレ園」に到着しました。事務長より入園者一人一人の紹介をうける。考えていた以上に皆さんが元気で非常に明るい毎日を過ごされている様子なのにびっくりする。でも、ご年配のかたが多いため全盲の人、寝たきりの人、一人歩き出来ない人達もおられました。全員私達一行の訪問を心から喜び歓迎してくれました。異国の地での、この淋しいお年寄達にとってはお金よりも食物よりも嬉しいのは、同胞との交流であり、今後共、同胞が、このナザレ園の自分達のことを忘れず訪問してくれることを熱望されています。皆さんの紹介を受けた後、有澤会長より、今回の訪問目的と挨拶の後、慰問品を贈呈しました。

1. 金20万円(当クラブより)



1. ポット5個(安座会員寄贈)
1. 入園用歯みがき4ダース(入江会員寄贈)
1. お菓子(有澤・佐藤会員寄贈)

贈呈式後、事務長に園内を案内される。広い敷地と陽光ふりそそぐ南向きの部屋を見ると、手厚く保護されていることがよくわかる。経済大国日本の養老園の方が見劣りするほどなので、何故これほどまで親切に手厚く保護してくれるのかと疑問に思い尋ねました。すると一人の韓国の人がこう言われました。「昔、我々韓国人が日本人にさげすまれていたとき、我々を理解し愛してくれたのは、今ここに入園されている人達です。だから今は我々が身寄りのない老人を大事にして上げねば……」と。単に観光だけで終わってしまう慶州で、民族をこえたふれあいに接する経験ができるのもR.C.会員であればこそ!!。もっともっと多くの国の人と接し、相互の理解と親善を深めてゆきたいと思っています。

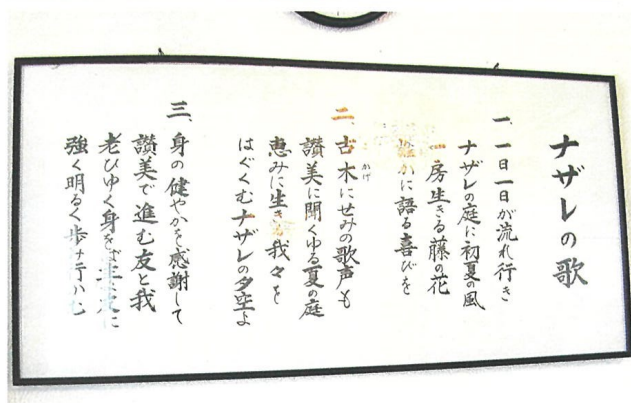
1998年～1999年



内浦ロータリークラブ友好訪問



1998年11月 内浦R.C.訪問



1999年4月 在韓邦人老人ホーム ナザレ園慰問（三姉妹合同例会で訪韓の際）